

標十五句

松岡隆子選

日向ほこりの脚くらゐまだ組めて
切干の母のにほひを広げけり
青空へどこまで本気秋の蝶
たひらかにして初冬の水の底
括らむとする枯菊の日をこぼす
酉の字のちらばつてゐる酉の町
駅までを歩くと決めて冬帽子
数増す早さビルの灯も凍星も
あたたまむる息が言葉に返り花
うかうかと齢八十いわし雲
一本の煙突統ぶる冬の町
鮫鱧の骨一本として吊るす
明日句座の空一面の冬夕焼
空風の過ぎて定まる星の位置
短日の駅出て重き荷と思ふ

川上昌子
別府優
佐藤郭子
平沢千恵子
高橋愛子
唐木和世
渡辺あつ子
松原ふみ子
濱地恵理子
生方ふよう
大津朗
菊池京子
田中敦子
中谷信子
根上節子